

# 南山宗教文化研究所「孝本貢文庫」について

永岡 崇

NAGAOKA Takashi

2010年、前年に逝去された孝本貢<sup>みつぎ</sup>（明治大学教授（当時））の蔵書および資料のほとんどすべてが、南山宗教文化研究所（以下、宗文研と略記）に寄贈された。これらが神社整理、墓制・先祖祭祀、キリスト教・日蓮宗不受不施派・新宗教諸教団、戦死者慰霊など、孝本が取り組んだ多岐にわたる研究主題についての重要な資料であることはいうまでもないが、同時に、戦後日本の宗教社会学・家族社会学の歩みを知るための第一級の資料群としても評価されるべきだろう。宗文研では現在、これらの蔵書・資料群を「孝本貢文庫」と名づけ、関心をもつ各分野の研究者への公開に向けて整備を進めている。本稿は、この整備作業の中間報告として、孝本貢文庫の特徴と意義についての紹介を試みるものである。

なお、孝本の業績をめぐっては、2010年の日本宗教学会第69回学術大会において、栗津賢太を代表者とし、筆者も参加したテーマパネル「宗教の規範性・公共性・情念—孝本貢の業績をめぐって」が組まれている。そこでは、神社整理研究、新宗教研究、墓制研究、戦死者慰霊研究に従事する各分野の研究者が、それぞれの立場から孝本によって切り開かれた地平を確認し、その批判的継承を目指そうとする発言を行った（『宗教研究』84巻4輯、2011年、参照）。本稿も、そこでの成果に多くを負っている。

また、栗津賢太・藤本頼生両氏の手による孝本の略歴と業績一覧が、『明治大学教養論集』460号（孝本貢教授追悼号、2011年）に掲載されている。あわせて参照されたい。

## 孝本貢教授について

まず、孝本とその学問について、簡単に紹介しておく。孝本は1942年岡山県生まれ、岡山大学で米村昭二に、ついで東京教育大学大学院で森岡清美に師事した。戦後の家・同族研究を牽引したふたりの社会学者の教えは、主著『現代日本における先祖祭祀』（御茶の水書房、2001年）をはじめ、孝本の研究全体に大きな影響を与えたと考えられる。それはたんに研究対象の選定に関することばかりではなく、栗津賢太が指摘するように、「個人の生活史とマクロな社会変動とを結びつけようという知的格闘」であり、そして「対象の持つ感情や情念をも読みこもうと」する、研究という営みに対する姿勢そのものでもあった（栗津賢太「パネルの主旨とまとめ」前掲『宗教研究』84巻4輯、174頁）。

卒業論文では、地元・岡山県下のキリスト教布教の実態を調査・分析し、修士論文は同じく岡山の日蓮宗不受不施派集落を扱っている。これらの論文をみれば、孝本が研究生活の初期からローカルな資料を丹念に集め、分析し、宗教と社会のかかわりを

人びとの日常生活の現場においてとらえようとしていたことがよくわかる。

1970年代から80年代にかけて、宗教研究を行う若手研究者が集った宗教社会学研究会（以下、宗社研と略記）での孝本の活動も注目される。宗社研は、1975年に東京教育大学や東京大学で社会学・宗教学を専攻する若手研究者を中心として結成され、孝本は第1回目の例会で不受不施派にかんする研究発表をおこなっている（宗教社会学研究会編『いま宗教をどうとらえるか』海鳴社、1992年、参照）。その後も創設メンバーとして共同調査や成果のとりまとめに力を尽くし、『新宗教事典』（井上順孝らと共編、弘文堂、1990年）に代表される重要な仕事を発表していった。

1990年に行われた宗社研の解散シンポジウムにおいて、孝本は宗社研の歴史的性格についてつぎのように説明している。「1970年代初めは全国の大学を吹き荒れた大学闘争も終焉していき、若手研究者は閉塞状況におちいって」いた。そうした状況を突破すべく、自主講座など社会へのコミットメントを求めようとする研究組織を立ち上げる者も現れていたが、宗社研も「そうした時代の落とし子」として「既存の大学、講座、先輩後輩関係にとらわれることのない研究会をめざし」、「若手による自由な討論」を標榜しながら活動を展開していったのである。また、1970年ごろを境にして、日本では「新新宗教」（西山茂）と呼ばれる新たな教団宗教が台頭し、他方では「精神世界」や「ニューエイジ」といった、スピリチュアルな自己変容・自己解放を志向する文化が広まるなど、「宗教回帰」といえそうな状況が顕在化していた。宗社研に集まった若手研究者たちは、いわばこうした現象に問われて、「民衆の宗教的世界に等身大の視座

で迫ろうと」するなかで、古典的な世俗化テーゼを乗り越え、先行世代の経済還元的・対象外在的なアプローチを批判し、宗教研究のスタイルを更新していったのだ（孝本貢「基調報告—シンポジウム・はじめに」前掲『いま宗教をどうとらえるか』1-4頁）。

孝本自身も、宗社研の論文集『現代宗教への視角』に執筆した論文のなかで、新たな先祖祭祀研究の課題として「祭祀者の心的構造、その帰結として表現される被祭祀者までを含めた」実態を解明することをあげ、人びとによって生きられた経験として宗教現象を記述することを目指していた（孝本貢「都市家族における先祖祭祀観」宗教社会学研究会編『現代宗教への視角』雄山閣出版、1978年、52頁）。先祖祭祀研究は孝本の仕事の中核をなすテーマであり、日本本土ばかりでなく在日コリアン社会や沖縄社会といった隣接社会の先祖祭祀へと関心を広げ、新宗教における先祖祭祀に着目して新たな先祖観の展開をとらえようとするなど、その射程はきわめて広がった。先祖祭祀は家の規範的世界を表すだけでなく、日本社会さらには東アジア社会全体のダイナミックな変容に密接にかかわるものでもあり、人びとのアイデンティティや世界観・人間観の提供、苦難の意味づけをも担う。『現代日本における先祖祭祀』の構成には、先祖祭祀を拠点として、人間の営みを総体的に捉えかえそうとする戦略が表現されているといえる。そしてさきに言及したキリスト教や不受不施派の研究、また1970年代に進められた神社整理研究などにもいえることだが、孝本の仕事にみられる方法的な特徴のひとつとして「地域」への着目をあげることができ、それは晩年の戦死者慰霊研究にまで貫かれている（西村明「戦死者慰霊研究における孝本貢の業績と残された課

題」前掲『宗教研究』84巻4輯、参照)。

2002年以降、孝本は勤務先の明治大学で、特攻隊をテーマにした教養演習を行った。学生とともに文献を読み、特攻隊関連施設を訪れた成果が、レポート集として残されている。このなかで、孝本は自らの特攻隊への関心について率直に語っている。

[演習の、引用者注] テーマを選定するにあたり、私の問題関心が日本社会論であり、そのなかに近代日本社会をどのように位置付けるかが一つの関心としてあることが、大きく作用した。近代天皇制国家が「国民」をいかに取り込んでいったかを解明したいと考えてきた。そのために近代宗教史研究、近代神社史研究などを手がけてきた。近代日本社会のひとつの帰結として、1930年代以降日本社会を超国家主義が覆い尽くした。それは「国民」を侵略戦争に駆り立て、「大東亜共栄圏」という美名の下で国民を呪縛し、総動員体制が行われた。そして、悲惨な悲劇が繰り返された。その結末は周知のように想像を絶する悲劇を体験することとなった。その典型的事例の一つとして、今日の学生と同じ年齢層、さらにそれより若い層が「十死零生」の戦闘行為である特攻隊作戦に駆り出されたことが挙げられよう。(孝本貢「はじめに」『太平洋戦争末期の特別攻撃隊—その作戦と兵士の心情世界』孝本教養演習室、2003年、2頁)

孝本が戦死者慰霊研究に本格的に取り組んだのは晩年になってからだが、それは近代天皇制国家と「国民」との関係性を問うという大きな問題意識において、長く取り組んできた宗教史・神社史の研究と連続的なものであった。1930年代以降の超国家主義の台頭、そして総動員体制や特攻作戦にいたる経過を近代日本社会の「帰結」と位置づけているという点では、戦死者慰霊研究は教授の「日本社会論」の仕上げとして

ひととき重要性をもつものだったのかもしれない。西村明がいうように、「これからさらに議論が展開・精緻化されるはずであった」領域であり(西村前掲「戦死者慰霊研究における孝本貢の業績と残された課題」、173頁)、「孝本貢文庫」のなかでももっとも多くの資料が残されていて、まさに研究の途上であったことがよくわかる。

またこれらのレポート集をみると、特攻や戦死者について調べ、考えることを、孝本が若い学生たちに「人生の指針」として伝えようとしていたということにも気づかされる。教授は「こうした〔特攻に関する〕事実を同じ年齢世代の今の学生たちにも是非認識し、考えてもらいたいというのがこのゼミの課題」であり、「それを戦史とか制度史としてではなく、当時の兵士たち、その遺族の方々の間人としての生き様に僅かでも接近してもらいたいというのが私の願いでもある」と綴っている(孝本貢「はしがき」『太平洋戦争と日本社会—兵士・遺族の視角から』明治大学商学部孝本教養ゼミ、2006年、1頁)。戦争の問題をたんなる「知識」として教えるのではなく、特攻隊員と同年代の学生たちが、直接に特攻隊の痕跡にふれることを通じて、実感をもって考えていく力を培うこと。それが孝本の教育だったのだろう。

#### 資料の整理状況について

ここで、「孝本貢文庫」の整理状況についておききたい。孝本の自宅および明治大学の研究室から運び出された図書・資料は段ボール箱数十個に及ぶ。文庫を構成するひとつの柱は、社会学・宗教学・歴史学・人類学・民俗学といった分野を中心とする図書である。6,500冊あまりのこれらの図書に関しては、すでに書誌情報の登録を行い、

宗文研書庫の書架に保管している。ただし、各資料に整理番号を付す作業が残されているため、現状では公開に至っていない。この作業を現在遂行中である。

文庫のもうひとつの柱として、断片資料とでも呼ぶべき非図書資料群が存在する。調査ノート、講義ノート、論文原稿、さまざまな主題に関する一次史料、コピー資料、論文抜刷、写真、ビデオテープなどがふくまれており、これらの資料の整理はかなり難航した（難航している）。これらの断片資料は、2013年に入って筆者が整理作業に取り掛かっている。現段階では、資料全体のおおまかな把握と、4分の1程度の資料の登録が済んでいる、といった状況である。したがって、以下の記述も、このように限定された視角からのものであることを断っておかなければならない。

目録作成の方法についても簡単に説明しておく。資料の性格に応じて、二種類の目録を作成中である。まず、前述の図書やパンフレットなどについては、蔵書管理ソフト「私本管理」を利用して、書誌情報の登録を行っている。書名や著者名だけでなく、テーマ別の検索も可能である。

つぎに、雑誌記事やノートなど、断片資料については、エクセルファイルへの入力によって整理を試みている。テーマごとに分類し、すべての資料に資料番号を付す。このエクセルファイルを通じて、利用者は目的の資料を見つけることができるだろう。

### 「孝本貢文庫」の資料的価値

これまでの作業を通じてみてきたかぎり、「孝本貢文庫」の特徴と、その資料的価値について考えてみよう。宗文研の蔵書を充実させるものとして、市販された図書類の寄贈はもちろん貴重だが、ここではよ

り個性的な特徴を示すコレクションとして、膨大な非図書資料群に絞ってのべておきたい。これらの非図書資料群について、筆者は2つの角度から資料的価値を評価することが必要だと思っている。ひとつは孝本が取り組んだそれぞれの研究テーマに関する情報源としての意義であり、もうひとつは戦後宗教（社会学）研究史の資料としての意義である。以下、順に説明を試みる。

#### 1. 近代宗教史の資料として

あらためていうまでもないが、資料は孝本の研究歴と寄り添うようにして保存されている。関連する主なテーマをあげれば、以下ようになる。

1. 地方（岡山県）におけるキリスト教の普及・信仰の実態
2. 日蓮宗不受不施派研究
3. 神社整理（合祀）研究
4. 先祖祭祀・墓制研究（家族・親族の現代の変容との関係、沖縄・在日コリアン社会も含む）
5. 新宗教研究（先祖祭祀を重視する教団中心）
6. 戦死者慰霊研究
7. 社会学関連文献

資料の形態としては、前節でふれたとおり多様というほかはない。「地域」にこだわりつづけた孝本が倦むことなく調査地に足を運ぶなかで集まっていったモノたちである。そのなかでも、現在もっともまとまった資料群を構成しているのは、晩年の戦死者慰霊関連の資料だろう。自費出版の戦争体験記、戦死者慰霊諸団体の会報・パンフレットなど、限られた範囲・時期にしか流通しなかった出版物も多く、個別的な戦争／戦後体験をとらえるうえで、有益な情報

をもたらず資料群だと考えられる。

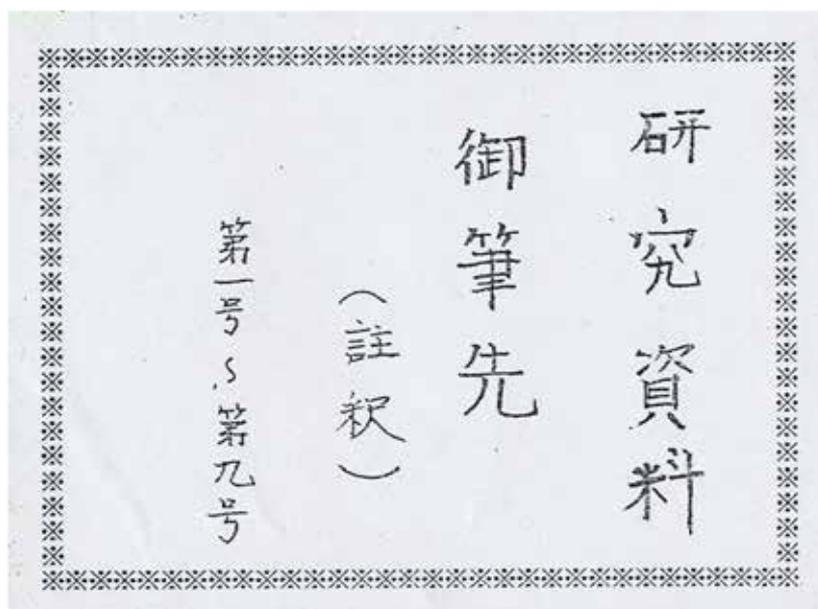
また、孝本が1970年代から80年代にかけて取り組んだ、松下祖神道や真理実行会のような教団についても、会報や教団出版物のコピーなどがある程度充実している。先祖供養など、孝本が関心を寄せた主題に関する部分にかぎられているものの、現在にいたるまでこれらの教団についての研究蓄積があまりないということを考えれば、後続の研究者たちがこれらの教団に関する基礎的な情報を得、本格的な調査を行うための参考とすることができると思われる。その他の分野に関しては、小教団の出版物や図書館で所蔵されにくいパンフレット類のような貴重な資料が含まれているが（図版1）、いずれも網羅的なコレクションということはできず、実証的な宗教研究の資料として直接的に利用することは難しいだろう。

やや意外に思われたのは、先祖祭祀や墓制に関わる資料がそれほど多く残されていないことである。さきにも述べたよう

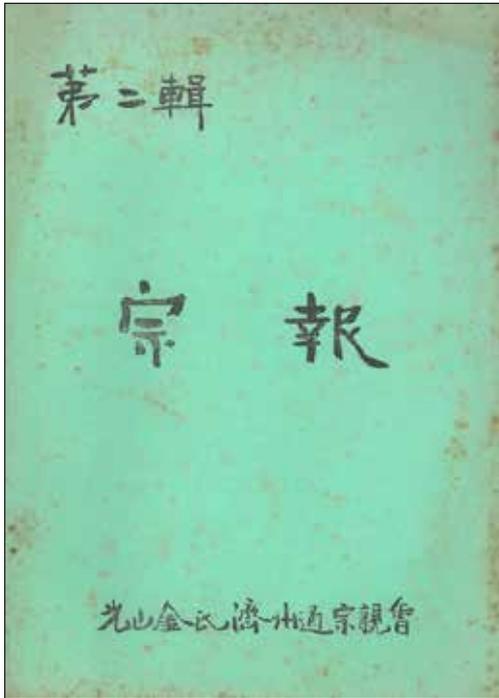
に、現代社会における先祖祭祀のありようを探求することが孝本のライフワークともいべき重要性をもっていたことからすれば、自宅や研究室で見つかった資料はあまりに少ないように思われる。そうであれば、こうしたテーマに関する資料は、どこかの段階で処分されたと考えるのが自然であるかもしれない。それでも、たとえば在日コリアンの親族会のひとつ「在日光山金氏親族会」の規約や機関誌など、個別的な親族集団の活動を示す貴重な資料も少なからず残されている（図版2）。

## 2. 戦後宗教（社会学）研究史の資料として

今、筆者は孝本のノートや雑誌のコピーや発表レジュメや研究会で撮られた写真等々といったものを眺めながらこの文章を書いている。そこで改めて感じさせられるのは、この断片資料群は、孝本が歩いた場所、そこで出会った人びと、彼の問題意識あるいは見ようとしたものと切り離すべきでは



図版1：『研究資料』（神一条教）



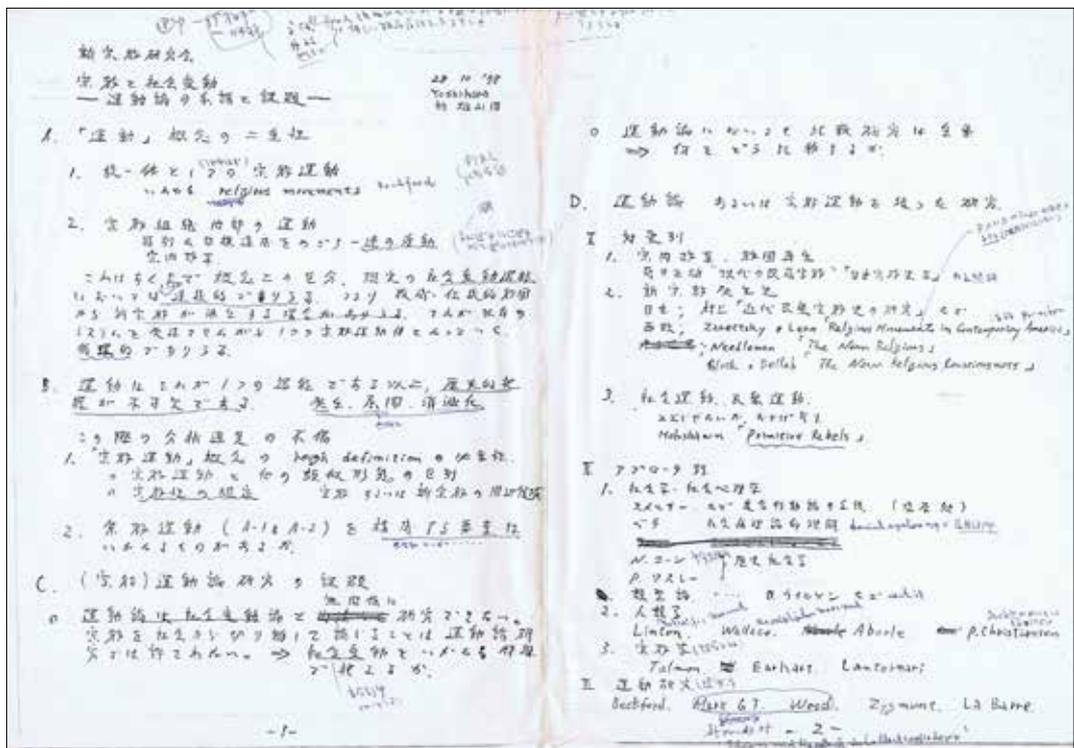
図版 2：『宗報』（光山金氏濟州島宗親會）

ないのではないか、ということだ。こうした認識は、断片資料のもうひとつの資料的価値へと私たちを導く。

孝本が当事者としてその一端を担った、戦後日本の宗教（社会学）研究史を再構成するための資料として、「孝本貢文庫」を評価しなおすことができるのではないだろうか。上述のとおり、孝本は先祖祭祀研究を推進した宗教社会学者としての顔ばかりでなく、宗社研の中心的メンバーであり、宗社研解散後に設立された「宗教と社会」学会では初代会長を務めた、宗教研究者ネットワークの中心的な組織者としての顔もっていた。そうした観点から資料を見直すとき、調査の過程を伝えるノートやカード、論文作成の過程を伝える原稿などは、調査対象者（地）との関係性をふくめた研究者の実践あるいは自己形成のプロセスを知る手がかりとなり、1970年代・80年代の研究

会レジュメや合宿での写真などといったものは、当時の研究者ネットワークのありようを探る媒体となりうるだろう（図版 3、4）。近年、宗社研に関わった世代の研究者が切り開いた地平やその問題点について、若手研究者の学史的関心が高まっていることから（たとえば大谷栄一「スピリチュアリティ研究の最前線—二十世紀の宗教研究から二十一世紀の新しい宗教研究へ」（伊藤雅之・榎尾直樹・弓山達也編『スピリチュアリティの社会学』世界思想社、2004年）、2010年度「宗教と社会」学会テーマセッション「現代社会における宗教社会学の可能性—「世俗化論」以後の課題と応答」、永岡崇「新宗教文化の脱教团的展開—教祖研究の作法をめぐって」（幡鎌一弘編『語られた教祖—近世・近現代の信仰史』法蔵館、2012年）など参照）、「孝本貢文庫」の戦後宗教（社会学）研究史の資料としての意義は重要性を増しているのではないだろうか。とくに、こうした物質資料は、言説の分析を中心に行われてきているこれまでの研究史のあり方に対して、より実践的なレベルの問題に着目することを促しているように思われる。

もちろん、孝本の所蔵資料だけで戦後宗教研究史を描くことはできない。それは二重の意味で不十分な資料でしかないからだ。第一に、こうした資料群自体、研究史の資料を残すべく体系的に保存されたものではなく、宗教研究者の日常的な営みを示す部分的・断片的な痕跡としてひっそりと存在している。第二に、戦後日本の宗教研究を推進したのは、東京近郊の研究者を中心とした宗社研だけではない。たとえば関西に基盤をもつ宗教社会学の会や九州の西日本宗教会のように、地域に根ざした宗教研究を担ってきたグループは全国各地に存在



図版 3:「新宗教研究会」レジュメ

する。その意味で、孝本がかかわってきた研究集団は、戦後日本の宗教研究史を構成する多様な実践の一部でしかないのである。

ここでいっているのは、戦後宗教研究史の資料は各地の、それぞれの研究者の手元に今も散在しているはずだということであり、それらを自覚的に保存し、相互に補完しあうことのできるネットワークの構築が必要だということである。筆者は、そうした観点から「孝本文庫」の整備を行い、公開することを通じて、来るべき他の事例との協働に備えたいと考えている。

もともと、こうした現代の研究史を構成する資料の扱い方、またそれらを駆使した研究史叙述の方法論は、いまだ確立されているとはいいがたい。筆者自身も徒手空拳で資料に向かっているといたった状況だが、本文庫に関心をもつ研究者が多く現れ、と



図版 4: 宗教社会学研究会解散シンポジウムポスター

もに活用する方法を検討する機会の訪れることを切に望む。

[ 注記 ]

本稿執筆にあたって、多くの方からご協力をいただいた。孝本教授の蔵書・資料を快くご寄贈いただいたばかりでなく、ご自宅で多くの写真を示しながら貴重なお話を聞かせてくださった孝本敏子氏、資料の梱包・運び出しに従事した渡邊学氏、栗津賢太氏および明治大学孝本ゼミの学生諸氏、図書館の整理を担当した長澤志穂氏、筆者とともに断片資料の整理に取り組んでいる鳥居小百合氏、そして文庫整備にあたって多くの便宜をはかってくれている南山宗教文化研究所の研究・事務スタッフに感謝したい。

なお、本稿は「宗教研究の国際化推進のための拠点形成と総合的な研究史調査」（文部科学省科学研究費補助金基盤研究(A)、2011～2013年度、代表者渡邊学）の研究成果の一部である。

次ページ以降の「孝本貢文庫・断片資料目録（部分）」は、整理中の資料のうち、大部分の整理が進んでいるキリスト教、不受不施派、その他新宗教諸教団の資料のみ掲載した。これ以外の資料についても、2013年度中を目処に整理作業を推進している。

なお、最新の目録については、南山宗教文化研究所ホームページ (<http://nirc.nanzan-u.ac.jp/ja/activities/on-line-resources/>) において随時公開していく予定である。

ながおか・たかし  
南山宗教文化研究所研究員

資料番号	主題	資料名	収録書/誌	刊行/作成時期	著者・編者	発行者	資料種類	資料形態	備考
01/001	キリスト教	『昭和五年雑用日記』		1930-1931			手書き文書	現物	1930.11.1-1931.4.30
01/002	キリスト教	『昭和十四年雑用日記』		1939			手書き文書	現物	1939.1.1-1939.11.6
01/003	キリスト教	調査ノート			孝本貢		手書きノート	現物	高梁教会などに関するノート
01/004	キリスト教	卒論用ノート			孝本貢		手書きノート	現物	
01/006	キリスト教	伊吹家史料 (1)			孝本貢筆写		手書きノート	現物	馬太傳など
01/008	キリスト教	明治十七年一月ヨリ日誌		1884	藤井義一		手書き文書	コピー	
01/009	キリスト教	井原キリスト教会資料ファイル 受洗・転入出関係		1923 ごろ			手書き文書など	現物	
01/012	キリスト教	讚美歌集 (部分)					冊子	現物	
01/016	キリスト教	『日本組合中国部傳道報告』(後編)		1935 ?	入江源次郎		騰写版プリント	現物	1934.4.1-1935.3.15 の記録
01/017	キリスト教	『日本組合基督教会年表』(後編)	『キリスト教社会問題研究』18号	1971.3	高橋凌	同志社大学人文科学研究所	雑誌記事	コピー	
01/018	キリスト教	『はしがき』「解説」「資料年表」	『キリスト教社会問題研究』19号	1971.3		同志社大学人文科学研究所	雑誌記事	コピー	
01/019	キリスト教	天城教会記録 (No.5)			孝本貢		手書きノート	現物	日誌など筆写
01/020	キリスト教	『美作落合教会の略史』			荒谷恒喜 (孝本貢筆写?)		手書きノート	現物	
01/021	キリスト教	笠岡教会会員名簿			孝本貢		手書きノート	現物	レポート用紙ホッチキス止め
01/022	キリスト教	信仰談 高井真一郎			孝本貢筆写		手書きノート	現物	
01/023	キリスト教	創立五十年略史 (昭和九年四月)			孝本貢筆写		手書きノート	現物	レポート用紙ホッチキス止め
01/024	キリスト教	卒業論文草稿?			孝本貢		手書き文書	現物	原稿用紙綴じ
01/025	キリスト教	『方都市における基督教会の定着過程—岡山県高梁教会の事例』原稿			孝本貢		手書き文書	現物	原稿用紙クリップ止め

資料番号	主題	資料名	収録書/誌	刊行/作成時期	著者・編者	発行者	資料種類	資料形態	備考
01/026	キリスト教	岡山キリスト教関係資料群					地図、調査票、統計表など	現物	紙箱入り
01/027	キリスト教	卒論用ノート			孝本貢		手書きノート	現物	草稿 「地方小都市に於けるキリスト教の普及」との表題あり
02/001	先祖祭祀	「現代日本社会における先祖祭祀—先祖祭祀研究の新たな地平をめざして」			孝本貢		ワープロ文書	現物	紙製本 「現代日本における先祖祭祀」(御茶の水書房)の草稿
03/001	新宗教	新宗教研究関係資料群		1970年代後半			手書きレジュメなど	コピーなど	初期宗社研記録？新宗教研究文献リストなど
03/01/001	松下祖神道	「オガタマ」第1号		1976.8.1	石橋長蔵	石橋長蔵	ニューズレター	現物	
03/01/002	松下祖神道	「オガタマ」第2号		1976.9.1	石橋長蔵	石橋長蔵	ニューズレター	現物	
03/01/003	松下祖神道	「オガタマ」第3号		1976.10.1	石橋長蔵	石橋長蔵	ニューズレター	現物	
03/01/004	松下祖神道	「神秘」(校正刷)		1948	西原猛		図書校正刷	コピー、クリップ止め	
03/01/005	松下祖神道	調査ノート			孝本貢		ニューズレター	現物、封筒	
03/02/001	真理実行会	静岡県での聴取調査		1980.7.4-7.6	孝本貢		手書きノート	現物	
03/02/002	真理実行会	『生命』No.1-15		1951.9?-1952.11		真理実行の教	雑誌記事	コピー	
03/02/003	真理実行会	『生命』No.16-19		1952.9-1952.12		真理実行の教	雑誌記事		
03/02/004	真理実行会	『生命』No.20-29		1953.1-1953.10		真理実行の教	雑誌記事		
03/02/005	真理実行会	『生命』No.30-39		1953.11-1954.8		真理実行の教	雑誌記事		
03/02/006	真理実行会	『生命』No.40-49		1954.9-1955.6		真理実行の教	雑誌記事		
03/02/007	真理実行会	『生命』No.50-59		1955.7-1956.4		真理実行の教	雑誌記事		
03/02/008	真理実行会	『生命』No.61-62		1956.6-1956.7		真理実行の教	雑誌記事	コピー	
03/02/009	真理実行会	『生命』No.36-62		1954.5-1956.7		真理実行の教	雑誌記事		
03/02/010	真理実行会	『生命』No.16-35		1952.9-1954.4		真理実行の教	雑誌記事	コピー、紙ファイル	

資料番号	主題	資料名	収録書/誌	刊行/作成時期	著者・編者	発行者	資料種類	資料形態	備考
03/02/011	真理実行会	『生命』 No.63-134		1956.8-1963		真理実行の教	雑誌記事	コピー、紙ファイル	本城千代子の教説、信仰体験記など
03/02/012	真理実行会	『生命』 ?				真理実行の教?	雑誌記事	コピー	本城千代子の教説など
03/02/013	真理実行会	『緑風』		1963.11-1967.3		真理実行の教出版部	雑誌	コピー、紙ファイル	
03/02/014	真理実行会	『緑風』		1963.11-1966.6		真理実行の教出版部	雑誌記事	コピー	
03/02/015	真理実行会	『緑風』		1966.11-1969.7		真理実行の教出版部	雑誌記事	コピー	
03/02/016	真理実行会	『緑風』		1969.8-1971.5		真理実行の教出版部	雑誌記事	コピー	
03/02/017	真理実行会	『緑風』		1971.6-1973.12		真理実行の教出版部	雑誌記事	コピー	
03/02/018	真理実行会	『緑風』		1970.7-1971.7		真理実行の教出版部	雑誌記事	コピー、紙ファイル	
03/02/019	真理実行会	『緑風』		1967.9-1970.6		真理実行の教出版部	雑誌記事	コピー、紙ファイル	
03/02/020	真理実行会	『緑風』		1973		真理実行の教出版部	雑誌記事	コピー	幹部研修会スケジュール、位牌の種類と使い方など
03/02/021	真理実行会	『緑風』		1969 ?		真理実行の教出版部	雑誌記事	コピー	信仰体験記
03/02/022	真理実行会	先祖祭りの基準、先祖祭りの実行例					図書の一部?	コピー	
03/02/023	真理実行会	調査ノート			孝本貢		手書きノート	現物	プラスチックファイル 年表、教義など基本情報のメモ
03/02/024	真理実行会	調査ノート			孝本貢		手書きノート	現物	レポート用紙クリップ止め 浜松での調査

資料番号	主題	資料名	収録書/誌	刊行/作成時期	著者・編者	発行者	資料種類	資料形態	備考
03/02/025	真理実行会	『真理実行会報』		1947-1958		真理実行会	雑誌	コピー、プラスチックファイル	
03/02/026	真理実行会	『死刑廃すべし』			本城千代子		図書の一部?	コピー	
03/02/027	真理実行会	『分身手帳』					図書	コピー	
03/02/028	真理実行会	『大蔵祝詞の新しい解説前篇』 ほか	『生命』No.26・『The Cosmos』3-7	1953			雑誌記事	コピー	
03/02/029	真理実行会	書簡(真理実行会→孝本貢)					書簡	現物	『緑風』42号の送付状、封筒入り
03/02/030	真理実行会	書簡(真理実行会→孝本貢)					書簡	現物	『緑風』49号の送付状、封筒入り
03/02/031	真理実行会	『真理実行会報』No.1-62		1947.12.1- 1958.10.1		真理実行会	雑誌記事	コピー	
03/02/032	真理実行会	調査ノート		1980	孝本貢		手書きノート	コピー	小野忠之助より聞き取りなど
03/02/033	真理実行会	『神の使徒本城千代子伝』／『真理実行への道』／『世界の光明』 ／『正夢の善悪』／『CHIYOKO HONJO』／『死刑廃すべし』					図書	コピー、紙ファイル	
03/02/034	真理実行会	『本城千代子女史逸話集』第参 巻・第四巻		1954		真理実行会	図書	コピー、紙ファイル	
03/02/035	真理実行会	調査ノート		1980	孝本貢		手書きノート	現物	レポート用紙 信徒聞き取り
03/02/036	真理実行会	調査ノート		1980	孝本貢		手書きノート	現物	信徒聞き取り
03/02/037	真理実行会	調査ノート			孝本貢		手書きノート	現物	レポート用紙 ホッチキス止め 浜松の会員リスト
03/02/038	真理実行会	『緑風』		1965・1969・ 1970		真理実行の教出版部	雑誌記事	コピー	信仰体験記、座談会など
03/02/039	真理実行会	調査ノート			孝本貢		手書きノート	現物	浜松分院長聞き取りなど

資料番号	主題	資料名	収録書/誌	刊行/作成時期	著者・編者	発行者	資料種類	資料形態	備考
03/02/040	真理実行会	「カリスマの死」	『明治大学教養論集』139号	1980.12.1	孝本貢	明治大学教養部	論文抜刷	現物	
03/02/041	真理実行会	「カリスマの死」	『明治大学教養論集』139号	1980.12.1	孝本貢	明治大学教養部	論文抜刷	現物	
03/03/001	妙智会	「みょうち」				妙智会	雑誌記事	コピー、紙ファイル	「会長先生言行録」ほか
03/03/002	妙智会	「戒名の意義」	『みょうち』6(1)		教学部	妙智会	雑誌記事	コピー	
03/03/003	妙智会	「妙智のおしえ(38)―大恩師ご遺珠解説(7)」	『みょうち』10(3)			妙智会	雑誌記事	コピー	
03/03/004	妙智会	「みょうち」				妙智会	雑誌記事	コピー、紙ファイル	信仰体験記(マデセン輝子ら)
03/03/005	妙智会	「みょうち」				妙智会	雑誌記事	コピー、紙ファイル	信仰体験記(初瀬幸子ら)
03/03/006	妙智会	調査ノート		1979	孝本貢		手書きノート	現物	聖地団参のフィールドワーク
03/03/007	妙智会	調査ノート			孝本貢		手書きノート	現物	先祖供養などに関する聞き取り
03/04/001	不受不施派	妙覚寺史料 S-5-イ					木版文書?	写真、スクラップブック	
03/04/002	不受不施派	妙覚寺史料 S-5-ロ					木版文書?	写真、スクラップブック	
03/04/003	不受不施派	妙覚寺史料 S-5-ハ					木版文書?	写真、スクラップブック	
03/04/004	不受不施派	妙覚寺史料 S-5-ニ					木版文書?	写真、スクラップブック	
03/04/005	不受不施派	本山日記		1879-1885			手書き文書	コピー、紙ファイル	
03/04/006	不受不施派	「不受不施派年表(稿)」			妻鹿淳子・長光徳和		手書き文書	コピー?	

資料番号	主題	資料名	収録書/誌	刊行/作成時期	著者・編者	発行者	資料種類	資料形態	備考
03/04/007	不受不施派	不受不施村落調査資料群		1973?			手書きノートなど	現物	紙箱入り
03/04/008	不受不施派	修士論文「仏教教団の再編成過程の研究」			孝本貢		手書き文書	現物、紙ファイル	
03/04/009	不受不施派	修士論文「仏教教団の再編成過程の研究」			孝本貢		手書き文書	コピー、紙ファイル	
03/07/002	天理教	「おたすけ」に就いて(一)」	『日本文化』2号	1934	牛尾喜太郎	日本文化研究会	雑誌論文	コピー	
03/07/003	天理教	「おたすけ」に就いて(二)」	『日本文化』3号	1935	牛尾喜太郎	日本文化研究会	雑誌論文	コピー	
03/07/004	天理教	「因縁の考察」	『天理教学研究』4号	1951	鈴木壽		雑誌論文	コピー	
03/07/005	天理教	明治期天理教関係資料群(「達及則」/「三教会同と天理教」/「道之友」)		1910前後			図書、雑誌記事	コピー、紙ファイル	
03/07/006	天理教	大正期「道之友」		1910-20年代			雑誌記事	コピー、紙ファイル	
03/09/001	金光教	「昭和47年新年に思う教主年頭放送」		1972			パンフレット	現物	
03/09/002	金光教	「大教新報」		1907-1908		金光教本部教庁	雑誌記事	コピー、紙ファイル	
03/09/002	金光教	年代別都道府県別金光教開設教会数一覧					謄写版プリント	コピー	
03/10/001	大本	「変態心理」21・26号ほか		1919.7.1・1919.12.1		日本精神医学会	雑誌論文	コピー、紙ファイル	大本批別号。林道義「ウェーバーにおける歴史と「意味」が同じファイルに綴じてある。
03/10/002	大本	「綾部大本一望図」ほか		1962以降	企画：大本七十年史編纂会		絵地図	コピー	1962年12月時点の情報
03/11/001	創価学会	「法のため、民衆のため 世界平和のために」	『大百蓮華』1991年1月号	1991.1	阿部日顕	聖教新聞社	雑誌記事	コピー	

資料番号	主題	資料名	収録書/誌	刊行/作成時期	著者・編者	発行者	資料種類	資料形態	備考
03/11/002	創価学会	「秋谷栄之助会長談話」		1991			ワープロ文書	コピー	「創価学会解散勧告書」について
03/11/003	創価学会	「創価学会分離作戦（C作戦）」					ワープロ文書	コピー	
03/11/004	創価学会	「日顕法主の誤りについて」					ワープロ文書	コピー	
03/11/005	創価学会	「宗教法人「創価学会」規則」		1988			ワープロ文書	コピー	
03/11/006	創価学会	「日蓮正宗制宗規」		1988			冊子	コピー	
03/11/007	創価学会	「宗務院録事」		1990			冊子	コピー	
03/11/008	創価学会	「通告文」（創価学会解散勧告書）		1991	阿部日顕・藤本日潤		冊子	コピー	
03/11/009	創価学会	「創価学会青年部51年度活動大綱」		1976			冊子	現物	
03/12/001	立正佼成会	「入会の手引き」	『交成』5(10)	1954.10.1			雑誌記事	コピー	
03/12/002	立正佼成会	「慳貪の罪」	『交成』3(8)	1952.2.1	長沼妙俊		雑誌記事	コピー	
03/12/003	立正佼成会	「正法を謗る罪」	『交成』6(3)	1955.3.1	長沼妙俊		雑誌記事	コピー	
03/12/004	立正佼成会	「法華経解説（十二）」	『交成』2(7)	1951.7.1	庭野日敬		雑誌記事	コピー	
03/12/005	立正佼成会	「更らに反省の転機」	『交成』5(8)	1954.8.1	庭野日敬		雑誌記事	コピー	
03/12/005	立正佼成会	「先祖回向と仏道修行の意義」	『佼成』1966年9月号	1966.9	庭野日敬		雑誌記事	コピー	
03/12/006	立正佼成会	「佼成靈園使用規則」					活字プリント	コピー	
03/12/007	立正佼成会	「立正佼成会の信仰」／「立正佼成会信仰体験集第一集」		1954.2.15/ 1952.3.5	鶴藤幾太/ 鴨宮成介	呉竹書院/立正佼成会宗学研究所	図書	コピー、紙ファイル	
03/13/001	天照皇大神宮教	調査ノート			孝本貢		手書きノート	現物	信徒聞き取りなど
03/13/002	天照皇大神宮教	天照皇大神宮教資料群		1980 前後			機関紙「企業だより」など	コピー、手書きメモなど。紙ファイル	
03/13/003	天照皇大神宮教	調査ノート			孝本貢		手書きノート	現物	
03/14/001	神一条教	神一条教会資料群				神一条教会	謄写版プリント	現物	教義書など
03/15/001	辨天宗	チラシ				辨天宗	紙チラシ	現物	

資料番号	主題	資料名	収録書/誌	刊行/作成時期	著者・編者	発行者	資料種類	資料形態	備考
03/16/001	阿含宗	「密教秘法水子入型解脫供養法」				阿含宗	パンフレット	現物	
03/16/002	阿含宗	「阿含宗」		1987以降		阿含宗	パンフレット	現物	
03/17/001	国柱会	「妙宗大靈廟」			国柱会	国柱会本部	パンフレット	コピー	
03/18/001	大乘教	「大乘新報」802号		1979.12.10		大乘教総本山	教団機関紙	現物	
03/18/002	大乘教	「大乘の教」					パンフレット	現物	
03/19/001	幸福の道教会	「幸聖」104号		1980.2.5		幸福の道教会	教団機関紙	現物	
03/19/002	幸福の道教会	「幸聖」107号		1980.5.5		幸福の道教会	教団機関紙	現物	
03/19/003	幸福の道教会	「幸聖」108号		1980.6.5		幸福の道教会	教団機関紙	現物	
03/20/001	霊友会	「霊友会史研究会」記録」		1990		霊友会史編纂室	ワープロ文書	現物	第7回「成立期霊友会に関する総合検討会」の記録
03/20/002	霊友会	久保角太郎「昭和之法垂縁と常不昧菩薩」/初期霊友会史料(明法会)		1928 / 1930ころ		霊友会/明法会	図書	コピー、紙製本	
03/20/003	霊友会	「生活の宗教」としての新宗教」三校		2002	孝本貢		校正刷	現物	「宗教研究」333号の論文
03/20/004	霊友会	「生活の宗教」としての新宗教」	「宗教研究」333号	2002.9.30	孝本貢	日本宗教学会	論文抜刷	現物	
03/20/005	霊友会	「生活の宗教」としての新宗教」	「宗教研究」333号	2002.9.30	孝本貢	日本宗教学会	論文抜刷	現物	
03/20/006	霊友会	"The Place of Ancestors in the New Religions"	『日本文化研究所紀要』62輯	1988.9	孝本貢	國學院大學日本文化研究所	論文抜刷	現物	
03/20/007	霊友会	「新宗教の靈魂觀と戒名」			孝本貢		ワープロ文書	現物、ホッチキス止め	発表原稿